

足立史談会だより

足立区郷土博物館
足立史談会事務局
TEL 03-3620-9393
FAX 03-5697-6562
金曜日 10:00-12:00

【第426号】
令和7年9月15日

伊興本町・東岳寺の『広重忌法要』と『一日だけの広重展』を訪ねて

【はじめに】

立秋を過ぎたというのに残暑のなか、令和7年9月6日(土)足立区伊興本町にある東岳寺を訪れて来ました。かの名高い世界に誇る、浮世絵師・広重の命日にあたる9月6日(土)には、平成12年(2000)以来ずっと『広重忌法要』と『一日だけの広重展』のテーマで、毎年、稲垣進一先生(国際浮世絵学会常任理事)が、個人で、開催してきていたそうです。今では(平成30年「2018」~)足立区立郷土博物館主催の出張展示です。



東岳寺正門



展示会場の様子

【展示会場の様子】

会場には郷土博物館・池林館長以下、4名のスタッフが詰めておられ、作品の説明などされていました。会場内の説明文や作品群等を、拝読・拝観して、特に印象的でしたのが、広重・最晩年の大作『名所江戸百景』でした。説明文によりますと、広重が、60歳(安政3年「1856」)~没する62歳(安政5年「1858」)まで、約2年間かけて『名所江戸百景』として完成させたとの事です。『名所江戸百景』の中でも、ゴッホに計り知れないほどの影響を与えたと言われている作品(『大はしあたけの夕立』・『亀戸梅屋敷』)等、最高傑作と言われる作品群が展示されていました。

その他、広重の風景を【描く技術】等の説明文等も掲示されておりましたが、省略させて頂きました。

【おわりに】

展示会場を後にして、寺の境内に目をやれば、大層立派な広重顕彰碑に、目が止まりました。碑の中央には広重の心境を綴った含蓄ある時世の句、『東路へ筆を残して旅の空 西の御国の名ところを見ん』が刻まれていました。(伊藤 博)



広重顕彰碑

9月26日(金) 史談大学講座

「映像で見る昭和の足立」

(13:00~15:00)

足立区立郷土博物館 2階 講堂

※綾瀬駅発のバスは時刻が変更になりほとんどのバスが北綾瀬駅発になっておりますのでご注意ください。